

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名	ヒュージ・リスペクト	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.490	△RG	0.052	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

**テストボール：ヒュージ・リスペクト**

フレアーの幅  インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離  インチ

4-1/2

研磨剤

**比較対照ボール：リスペクト・ソリッド**

フレアーの幅  インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

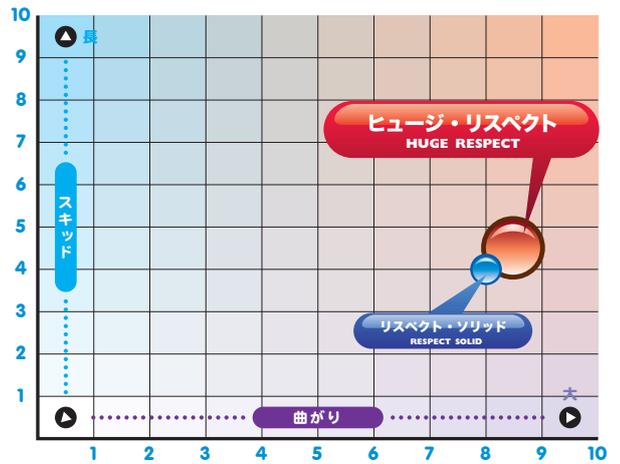
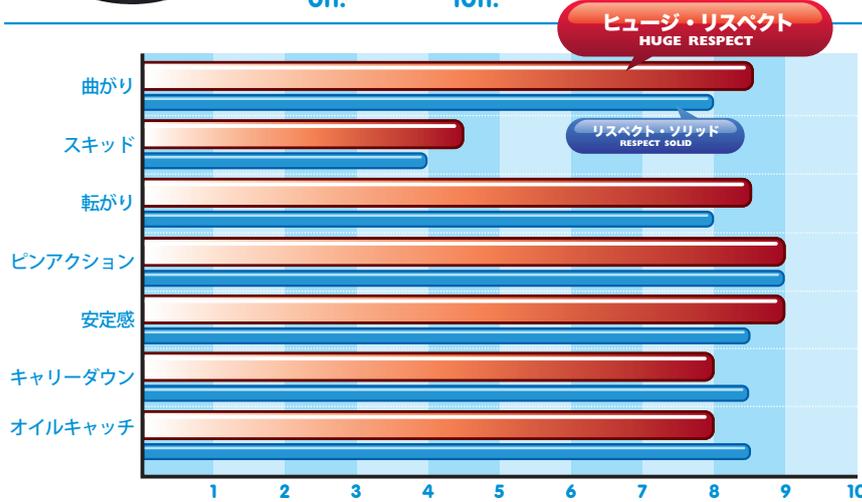
PAPからピンとの距離  インチ

5

研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



### ボールの評価

RESPECTと聞けば、Columbia社から電撃移籍したクリスバーズが日本で行われたDHCカップで優勝を成し遂げ、900Global社の名とともにRESPECTの高性能を世に知らしめたボールでした。

そこからTotal RESPECT (INTERNATIONAL)、RESPECT SOLIDと発売され、今回のHUGE RESPECTで第4弾になります。このHUGE RESPECTの最大の魅力はS78 Dig HybridでMOXIEと同等のCoverstockですが、Pearl素材主体の構成になっています。3色の場合、同じHybridでも「Solid・Solid・Pearl」なのか「Solid・Pearl・Pearl」の素材構成なのかでPerformanceは大きく変わります。そのほか配色でも大きく変化します。このHUGE RESPECTは「Solid・Pearl・Pearl」で構成することで、キャッチよりもややスキッドを重視してBackendで温存させたパワーを最大に活かせる作られています。そのため大事なパワーユニットtetra Symmetric Coreは機能性・万能性に長けていて、様々なCoverstockでもほぼパーフェクトな性能を発揮できる実用性が高いCoreです。

今までのRESPECTシリーズで比較してみると、キャッチはRESPECT SOLIDより若干下で、バックエンドの動きは初代RESPECTとほぼ同等の運動性能を感じました。Box finishの4,000Gritが非常に絶妙に走らせ過ぎず、キャッチさせ過ぎない状態をつくりだしており、Backendまでのパワー伝達がスムーズに行われているのを感じます。実際に投球してみてBackendがやや暴れる場合にはもう少し光沢を消してMid Laneでの動き出しを強調させても良いでしょう。現在発売されている900Global社の中でこのHUGE RESPECTが一番曲りがでる(出せる)ボールとして位置づけられました。

キャッチとRESPECT系のBackendの強さを求めるかたはこのボールで決まります。

### 特記事項

**S78 Dig HybridとTetra Symmetric Coreの組み合わせで、キャッチとBackendの動きのバランスが絶品です。900Global社系のCover Stockで動きが欲しいボールをお探しのかたはこのボールは見逃してはいけません。**